

さかい
利晶の杜

学芸だより
第9号

企画展特集

生誕150年
与謝野鉄幹



与謝野鉄幹還暦記念会会場 個人蔵



与謝野鉄幹還暦記念展の会場にて(正面右が鉄幹、左が晶子) 与謝野光氏旧蔵

与謝野鉄幹(本名、寛)は昭和8年(1933)に、還暦を迎えます。まず、東京会館にて誕生日の2月26日夜に祝賀会が催され、同月25日から3日間にわたって東京の高島屋にて記念展が開催されました。本資料はその記念展のポスターで、石井柏亭が手がけています。記念展では、「梅花」と題した与謝野夫妻と画家による掛軸が61幅と、鉄幹と晶子の著作物が展示されました。また、鉄幹生前最後の歌集『与謝野寛短歌全集』刊行とともに、晶子をはじめ、弟子や同人たちの記念歌集『梅花集』が記念配布されました。両歌集の表紙も本資料と同様に、梅の絵が描かれています。

「鉄幹」というのは古い梅の幹のことで、梅花を愛することから雅号(ペンネーム)として用いられていました。一般的には、本名の寛よりも鉄幹の名前の方がよく知られていますが、実は明治18年(1885)から約20年の間しか使われていません。その後、本名の寛で文学活動が続け、還暦を迎えた二年後にこの世を去ります。鉄幹の遺稿歌集にも梅の絵が描かれ、鉄幹は生涯梅を愛した歌人でした。

(与謝野晶子記念館学芸員 森下明穂)

目次

- | | |
|-----------|--|
| 1 企画展特集 | 生誕150年 与謝野鉄幹 |
| 2 記念対談 | 西村富美子
須藤健一 |
| 3 学芸茶話 | 学芸員のお仕事
展示を工夫する |
| 4 レポート | 関東大震災100年
さかい利晶の杜企画展
「災害をのりこえる晶子の意志」 |
| ちょっと一息 | |
| | みて!みて!利晶のここ
待庵ツアーの魅力 |

大阪市出身。中国文学(白楽天)専門。与謝野晶子・寛や『明星』に関する論文多数。



西村富美子(三重大学名誉教授)

記念対談

須藤健一(堺市博物館長)



新潟県佐渡市出身。文化人類学者。国立民族学博物館名誉教授、前館長。

企画展「生誕150年 与謝野鉄幹」を記念し、中国文学者で鉄幹の漢詩についても詳しい研究者と、佐渡出身で文化人類学者の館長という異なる専門家による対談を行いました。

※本対談では混乱を避けるため、与謝野鉄幹の本名の寛で統一しています。

●与謝野寛と漢詩の友人

須藤 西村先生には、平成23年(2011)に堺市博物館で「与謝野寛の漢詩」について講演いただきました。今回の企画展では、寛と漢詩のやり取りをしていた「渡邊湖畔」を紹介いたします。まず湖畔について教えてください。

西村 渡邊湖畔は、明治19年(1886)、佐渡の畑野村に生まれました。幼名を林平、後に家名を継いで金左衛門と言います。「湖畔」は短歌・漢詩の号、漢詩には彰も用い、俳句は古半を号としています。小学校を出た後中学校に進学せず、漢学者で国学、歌道の指導をしていた美濃部楨の許で本格的に漢詩を学んでいます。実家は呉服商で、30歳の頃に佐渡電灯会社の社長になります。明治39年(1906)から湖畔は寛が主宰する文芸雑誌『明星』の同人になり、短歌の指導を受けます。『明星』は間もなく終刊となるのですが、次第に二人は漢詩のやりとりをし、与謝野夫妻とも親密な交流を持つ間柄になりました。そして、寛の死に際して『東華』という雑誌に漢詩を掲載するようになりました。

須藤 湖畔は地主で商家という裕福な家に生まれ、電力会社や銀行代理店を営むなど、佐渡経済界で活躍すると同時に詩を身につけた文人でした。

西村 それは与謝野家との関わりからも感じられます。寛は、湖畔の長男栄太郎に東京の暁星中学への入学を勧め、面会を見ています。栄太郎は早稲田大学に進学し、後に早稲田大学文学部の教授(英文学)になりました。また栄太郎の結婚の際に晶子は立会人にもなっています。一方、湖畔も与謝野家に対して経済的な支援を惜しみませんでした。両者は家族ぐるみの付き合いでした。

●『佐渡びとへの手紙』

西村 渡邊湖畔を調べるにあたり、湖畔の弟芳松の二子息、湖畔の甥にあたる渡辺和一郎(故人)氏が出版した『佐渡びとへの手紙』が大変参考になりました。与謝野夫妻との手紙や関わりについて詳細にまとめられています。専門外のこと



とでしたが難しい漢詩も訓読し訳もされていて驚きました。須藤館長は、佐渡(出身)とお聞きしております。佐渡には毎年帰省しています。この著書は、寛からの百通もの書簡を年代順に読み解き、丹念に解説した力作です。湖畔と寛のつよい信頼関係がうかがえます。

●三度にわたる佐渡旅行

西村 与謝野夫妻は三度も佐渡を旅行しています。一度目は寛だけですが、須藤館長にはぜひ佐渡について教えてください。

須藤 号の由来ははつきりしませんが湖畔は金北山が映る鏡のような加茂湖ほとりに、将来美術館を建てたいと希望していたことはたしかです。

西村 与謝野夫妻の旅では、美しい景色だけでなく、各地の歴史や文化芸術が遺る場所を訪れています。まず、明治35年(1902)に寛単独で訪れた時には、近代短歌の革新者として、佐渡の新派の歌人たちが寛を招待していました。

須藤 佐渡の最後の奉行で「明治三十六歌仙」の一人、鈴木木重嶺や新派和歌の普及につとめた久保猪之吉などの影響で、当時の佐渡にはすでに近代短歌の受け皿があったのです。

西村 そんな中、寛が招待された訳ですね。与謝野夫妻で訪れた時には、能舞台を鑑賞し、佐渡おけさも聴いていますね。

須藤 能は名門本間家をはじめ、現存する35の舞台で今もなお舞われています。暮らしのなかにとけ込んでいます。佐渡おけさは金山の鉱夫たちの労働歌で、大正時代に「おけさ」の名をつけて有名になりました。『明星』同人で、相川中学の教頭をしていた東京生れの江南文三は佐渡おけさを全国に広めることに尽力しました。

西村 江南文三は与謝野夫妻の佐渡旅行の案内役を務めていますね。

●漢詩による心の交流

西村 寛と湖畔には吉田学軒という漢詩の先生がおりました。「昭和」という元号を付けた人です。深い学問的、学識的な知識が基礎になった漢詩が作れる大家です。寛が亡くなる数箇月前には二人で学軒の古稀の祝賀会を開くために準備をしていました。湖畔は学軒の古稀

を祝う漢詩を作っています。

須藤 二人はきわめてレベルの高い漢詩の教えを受けていたのですね。

西村 寛は三度目に佐渡を訪れ湖畔との再会に感激し漢詩を詠んでいます。それを『冬柏』という『明星』の後継誌に掲載していますが、最初の原作とは詩の題が異なり一部改作もしています。こういった赤裸々な行動や感情を率直に詠むというのは中国の漢詩ではまずありえないことです。中国と日本では詩に対する考え方が全く違うのです。また、日本の漢字音で韻を踏んで規則どおりに詠むというのは大変難しい。それを寛と湖畔は、何度も詩の応酬をしているのです。このことから、二人はお互いを認め合い詩作を楽しみ、心を許しあっていたことが分かります。湖畔は、寛の死後『冬柏』からも遠ざかり、漢詩はもっぱら『東華』という漢詩誌に掲載するようになりました。

須藤 本日は、渡邊湖畔と与謝野寛との短歌や漢詩をとおしての、また両家の親密なかわりについて、大変貴重なお話を聞きできありがとうございました。

西村 こちらこそ思いがけないジャンルの違う方とお話しできて有意義な時間でした。

※内容は、対談をもとに加筆修正したものです。(敬称略)

「企画展」生誕150年 与謝野鉄幹

【会期】令和5年(2023)11月18日(土) - 令和6年(2024)1月14日(日)

午前9時〜午後6時 入館は午後5時30分まで

【休館日】毎月第3火曜日、年末年始

【会場】さかい利晶の杜 企画展示室

【主催】堺市

【協力】与謝野晶子倶楽部

※内容は、対談をもとに加筆修正したものです。(敬称略)

学芸茶話

学芸員のお仕事 展示を工夫する

観覧者の方にもっとも身近な学芸員のお仕事。それがミュージアムの展示です。

皆さんは、ミュージアムの展示をご覧になつてどのような印象をもたれますか。もう少し資料の説明文の文字を大きくして欲しい。説明文がわかりにくい。会場の照明をもう少し明るくして欲しい。ご希望をたくさんお持ちだと思えます。常設展示のすべてを変えるのは難しいですが、期間限定の企画展では希望を実現しやすいので、学芸員はそのような希望をアンケートや会場のアテンダントから得ると、すぐに改善を考えます。

これまで実践した改善の工夫をご紹介します。

まず、文字の大きさですが、ケースの外側の説明の文字は、細く小さな書体を選んで、もそれほど問題ではありません。しかしガラス越しに見る、ケース内の文字は大きく

くつきりしたものを用いないといけません。字を単に大きくしても読みにくさは変わりません。文字の太さが影響します。そのため、20種類ほどの書体を試し、もっとも好評であった書体を用いています。観覧者の飽きがこないように場所によって書体を変えて、アクセントをつけることも大切です。



つぎに、説明文ですが、できるかぎり短く、展示資料の特徴を書くことを心がけます。たとえば千利休の手紙であれば、その手紙の何行目にどのようなことが書かれている



かであるとか、花押(サイン)にどのような特徴があるかなどの情報を明示します。説明を読みながら、資料を見返すことができ、そのような文章が求められます。ながながと利休についての説明を書く必要はありません。



会場の照明は、通常、作品保護のために

照度を少し落としています。作品の細部を明るい光の下で、ゆっくりと見たい。どうしてもっと明るくできないのだろうか?ミュージアムの展示場は「暗い場所」というイメージを持つ人もいます。光に含まれる紫外線は作品を褪色させてしまいます。吉田初三郎の昭和10(1935)年「堺市鳥瞰図

原画(堺市博物館蔵)は、長く堺市の施設内に掲示されて多くの人が見る事ができました。しかし、つねに光があたっていたため、その美しい色彩は残っていません。一方、のちに存在が発見された吉田初三郎の昭和11(1936)年「函館市鳥瞰図原画(堺市博物館蔵)は、光にあてられず保管をされていたおかげで、その美しい色彩は損なわれずに残っていました。丁寧に保存し、期間を限定して公開することで、今後も多くの人が鑑賞することができます。

いつ行っても原画を観ることができるとは、素晴らしいことです。しかし、それによって原画というかけがえのない文化財を損なってしまうことは、あつてはならないと思います。現在の人のみ満足してもらおうのではなく、未来の市民も文化財の素晴らしさを楽しめるように考えていかなければなりません。

しかし、作品の性質によっては、期間を限定するのであれば照明を明るくしても問題が少ない場合もあります。その際には、慎重に工夫をしながら、できるだけ明るい照明で鑑賞をしていただけるように工夫をしています。

このような工夫は、観覧者からの声があつてはじめてスタートを切ることができません。すべてに応えることはできませんが、観覧者の方々と一緒によりよい展示を考えたいと思います。

(堺市博物館学芸員 矢内一磨)

レポート

関東大震災一〇〇年

さかい利晶の杜企画展「災害をのりこえる晶子の意志」

(令和5年5月20日～6月11日)

令和5(2023)年は、大正12(1923)年9月1日に関東大震災が発生してから一〇〇年となります。44歳の与謝野晶子はこの地震による火災で、長年書き溜めた完成寸前の貴重な『源氏物語』の現代語訳原稿を失うという被災体験をしています。

しかし、晶子は創作への熱い想いと強い意志を失うことなく、再び執筆に取り組み、生涯をかけて刊行を成し遂げました。その作品は日本の文学の歴史のなかに黄金の輝きを放っています。晶子はつねづね過去よりも未来を大切にし、困難を恐れることなく限らない挑戦をすることを心がけていました。その不屈の精神は、未

曾有の災害に直面しても揺らぐことがありませんでした。本展は、関東大震災で被災した晶子が残した言葉に触れ、災害を乗り越える意志と精神を学んでいくとともに、自然災害に対する意識を持つことを目標に開催しました。

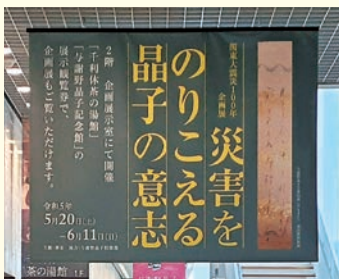
(堺市博物館学芸員 矢内一磨)



展示資料
右:与謝野晶子「大切な原稿を土ふかく埋めておけばよかった」(雑誌『婦人世界』第18巻第10号、1923年10月)
左:与謝野晶子自筆短冊(月もまた)堺市博物館蔵



会場風景



受付横 タペストリー

令和5年	11月	12月	令和6年	1月	2月	3月
	11月18日(土)～1月14日(日) 生誕150年 与謝野鉄幹			1月20日(土)～2月18日(日) 安井寿磨子展 夢のつぶて -今わたしにできること-		3月2日(土)～3月17日(日) さかいアートパワー
	～12月18日(月) 千家十職の点前道具			12月20日(水)～3月18日(月) 千家十職の正月飾り		
	～12月18日(月) 青磁			12月20日(水)～ 茶入		
	～11月20日(月) 歌掛軸 (明星の、紅葉のちる)	11月22日(水)～1月15日(月) 晶子・寛歌掛軸「秋風」		1月17日(水)～3月18日(月) ひな人形		
	企画展示室	千利休茶の湯館		与謝野晶子記念館		

※ 都合により、展示内容の一部が変更する可能性があります。

「さかい利晶の杜スタッフの「推し」」



施設担当者

みて！みて！利晶のここ 待庵ツアーの魅力

今年で7年目を迎えた大人気の待庵ツアーの魅力について、案内役のアテンダントさんに聞きました。

- どのような方が参加され、どんな感想を持たれますか？
堺市内外から、茶室を初めて見る方から、茶室建築に興味のある方まで、さまざまなお客様がツアーに参加されます。茶室に入ると「とても狭い」という第一印象をもつ方が多いですが、しばらくすると「なんとなく居心地がよいゆったりとした空間を体感した」という感想をお聞きます。
- ツアーを担当してどのようなところを工夫していますか？
お客様に興味をもってもらい、「体感」してもらうことを心がけています。説明は常に新しいことを取り入れ分かりやすくお伝えしています。お一人様でも気軽に参加できるように、親しみのあるご案内を意識しています。
- さかい待庵ツアーの魅力とは？
ツアーに参加した方からは、「堺の町中にあるとは思えないほど、静かで心が落ち着くお茶室」と言っていただけです。実際その通り、とてもほっとする空間です。ぜひ、ツアーにご参加下さい。

さかい待庵ツアーとは？

利休さんのわずか二畳の茶室「国宝妙喜庵待庵」(京都府)の創建当時の姿を体感するツアーです。さかい利晶の杜では、「さかい待庵」をはじめお茶室をめぐる楽しいひと時を1日5回提供しています。



編集後記

利晶学芸だより第9号をお届けします。「さかい利晶の杜」では、いつ来られても新鮮で楽しいミュージアムを目指し、色々なイベントを企画しています。引き続き応援をよろしくお願いいたします。

本号編集担当:海邊博史(さかい利晶の杜 学芸員)

さかい利晶の杜

Sakai Plaza of Rikyu and Akiko

- 千利休茶の湯館
- 茶の湯体験施設
- 与謝野晶子記念館
- 観光案内展示室

〒590-0958 大阪府堺市堺区宿院町西2丁1-1
TEL.072-260-4386 FAX.072-260-4725
https://www.sakai-rishonomori.com



開館時間

- 千利休茶の湯館・与謝野晶子記念館・観光案内展示室・企画展示室
9:00～18:00
※千利休茶の湯館・与謝野晶子記念館 入館は17:30まで
※企画展示室 企画展開催中のみ開室
- 茶の湯体験施設
10:00～17:00

休館日

- 千利休茶の湯館・与謝野晶子記念館・茶の湯体験施設・企画展示室
第3火曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始
- 観光案内展示室
年末年始

